



校訓

基本方針

至誠 ~真心をもって人に尽くす 真心をもって事にあたる~

147年の歴史と優れた伝統を創造的に発展させ、未来を担っていく知・徳・体の調和のとれた子供の育成をめざす。

学校教育目標

校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

めざす子供の姿

進んで学ぶ

課題をもち、意欲的に学習する子供

深く考える

よく考え、誠の心で行動する子供

やりぬく

目標をもち、がんばる子供

めざす教師の姿

【教育愛に満ち、学びの専門職としての誇りをもつ教師】

- 研鑽に努め、授業を大事にする教師
- 子供とともに実践し、慕われ尊敬される教師
- 職責感が強く、親和協力する教師

めざす学校の姿

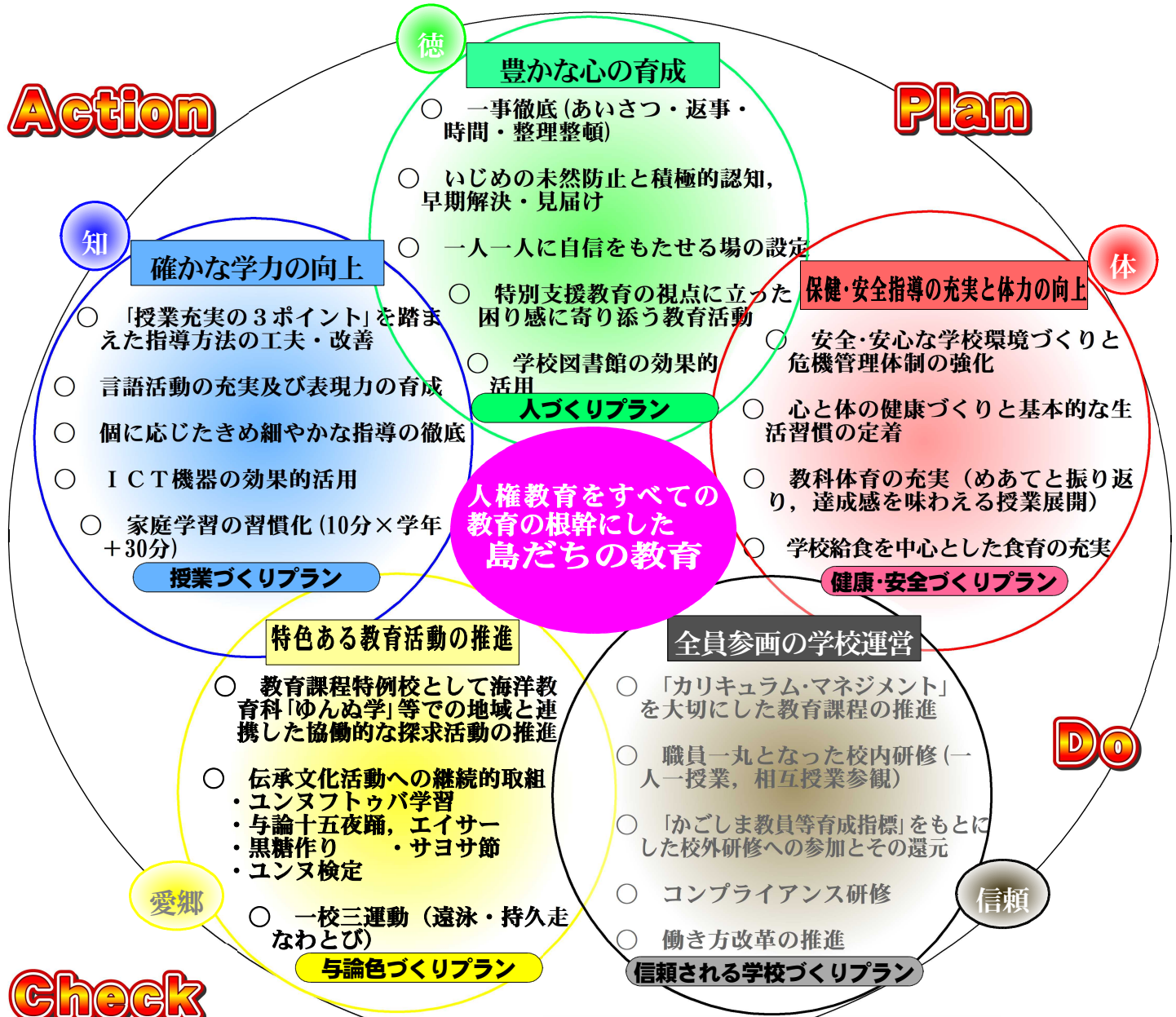
【子供のために何が最善かを考え、実践する学校】

- 期待して登校し、満足して下校する夢のふくらむ学校
- 歴史と伝統を大切にし、地域とともに進む学校
- 職員・児童共に汗を流し、花と緑に囲まれた学校

めざす家庭の姿

【子供とともに、夢・体験・島を大切に育てる家庭】

- あいさつや読書・行事参加を推進し、夢を育む家庭
- 手伝いや勤労体験を大切にする家庭
- 郷土の文化を大切にし継承する家庭



授業がよく分かれると感じる児童 90%以上

諸学力検査全国及び県平均+5ポイント以上

いじめを許さないと考える児童 100%

自分にはよいところがあると感じる児童85%以上

むし歯治療率 100%

運動することが楽しいと感じる児童 90%以上

## 令和5年度 与論小学校学校教育目標及びグランドデザインについて

本校では、令和の時代に、守るべきは守り、変えるべきは変えるスタンスで、①与論らしいものであること②指導要領等にかかれた文言の繰り返しでないこと③教職員はもちろん保護者や子供たちでも言えるような覚えやすいものであること④すべての教育活動において意識されるものであることなどを考慮し、令和4年度から**学校教育目標を「校訓『至誠』を胸に、未来に挑む子供の育成」と**しました。そもそも各学校のすべての教育活動は、学校教育目標を達成するために営まれています。新しい学習指導要領においてカリキュラム・マネジメントの推進がこれまで以上に求められています。それは、教育活動の日常的な改善を図ることであり、効果を生み出しながら学校教育目標を達成していくことです。そのために、学校教育目標の目指すものを教職員が共有し、日常の教育実践の中で意識し続けること、家庭や地域とも共有していくことが大切であると考えます。

そこで、学校教育目標及びグランドデザインについて説明します。

「至誠」とは、これ以上ないほどに誠実であること、まごころを意味する言葉です。中国の古典「孟子」の有名な言葉に「至誠而不動者未之有也（至誠にして動かさざる者は未だこれ有らざるなり）」があります。まごころをもって接すれば、どんな人でも動かせる力があるということの意味をしています。この言葉は、幕末の志士吉田松陰が座右の銘としていたことでも知られています。あの徳川幕府を終わらせて明治という新しい近代国家を造り上げた原動力となった考えでもあります。また、与論の古謡に「<sup>ウ</sup>打チジャシヨリ ジャシヨリ <sup>マクトツ</sup>誠 打チジャシヨリ 誠打チジャシバ <sup>ヌ</sup>何恥カチュンガ（打ち出せ、打ち出せ。誠を打ち出せ。誠を打ち出せば何が恥ずかしいことがあるろうか。否、何も恥ずかしいことはない）」と歌われています。与論のことわざカレンダーの解説には、「自然的・社会的・政治的・経済的そして言語的逆境に苦しめられ、共通語が自由に使えなかった与論の島民は、誠は天の道と知りながらも、自分が正しいと信じる意見を述べることをためらい、初めて接する人に誠意を持って接することにすら遠慮しがちだったのであろう。与論の先人は、子や孫そして地域の後輩たちを代々このように励まし勇気づけてこられたのである。それがやがて島是となり『誠の島』と呼ばれるようになった。」と書かれています。

そのような中で、与論小学校では、戦前から全学級の級訓に「至誠」を掲げ、学校教育の根本に至誠をもって人間教育を貫いた歴史的な事実があります。その後、校訓として受け継がれてきたのです。つまり、「至誠」を不偏不朽の教育理想であり、生涯教育の根本と考えてきたのです。

よって、校訓「至誠」を胸に刻みながら、これからも学校教育を行っていきたいと考え、学校教育目標の前段に据えました。

一方、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことは、これまでも指摘されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっています。また、今後さらに加速度的に社会が変化していくことは必然です。今後いかなる時代が来ようとも子供たちはその中で生きていかなければなりません。そのために、今、学校教育には、子供たち一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、様々な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質能力を育成することが求められています。それらの資質能力をもって、子供たちがそれぞれの未来に挑んでいってほしいと願い、これからの学校教育を行っていきたいと考えます。そこで、学校教育目標の後段に「未来に挑む」を据えました。

学校教育目標ということから、文末を「子供の育成」としていますが、「校訓「至誠」を胸に、未来に挑む」というフレーズは、実は、私たち学校職員にも、保護者にも、あるいは与論小への愛着をもっていただいている全ての方にも、大切にしていってほしいと思っています。

次に、グランドデザインについて説明します。グランドデザインとは、学校の教育理念や教育目標、果たすべき役割を描いた学校経営全体の構造図のことです。本校のグランドデザインは、オリンピックの五輪をモチーフに、学校教育目標「校訓『至誠』を胸に、未来に挑む子供の育成」を達成するために設けた5つのプランが相互に連携しながら協力し合い、チーム与論小が一丸となって学校経営に当たることをイメージしてあります。

そして、学校教育目標を具現化するために、「信頼される学校づくりプラン(信頼)」を基盤として、「授業づくりプラン(知)」では、「分かった」「できた」と喜びのある授業づくりを通して、確かな学力の向上を目指します。「人づくりプラン(徳)」では、基本的な行動様式を確立させながら、「学校が楽しい」と実感できる人間関係づくりを通して、豊かな心の育成を目指します。「健康・安全づくりプラン(体)」では、安全・安心な教育環境のもと、基本的な生活習慣を確立させ、「運動することが楽しい」と実感できる場づくりを通して、保健・安全指導の充実と体力の向上を目指します。また、「与論色づくりプラン(愛郷)」では、与論のすばらしい伝統文化と教育資源など「与論っていいな」と実感できる体験活動を通して、特色ある教育活動の推進を図ります。なお、5つのプランは、人権教育をすべての教育の根幹としており、与論町が掲げる「島立の教育」を目指すものでもあります。さらに、知・徳・体それぞれの数値目標を2つずつ設定して、結果にコミットするよう努力してまいります。

以上、様々な思いや願いを込めて、令和5年度の学校教育目標及びグランドデザインを設定しました。子供たち一人一人の個性が輝き、希望に満ちた未来が切り拓かれることを信じて、教職員一同尽力してまいります。

令和5年4月

与論町立与論小学校長  
岩元 輝美